

市民の W A

武蔵野まごころ連



代表の藤本枝里さん(右)と副代表の竹場洗さん(左)



東日本大震災直後から、被災地の支援ボランティアを続ける武蔵野まごころ連。現地での整備活動から武蔵野市と被災地との交流のお手伝いまで、東北を支えるさまざまなサポートを行っています。



月1度の定例会では活動内容の報告などを行っている

がれきが積まれたままの南相馬市沿岸部

支援活動の継続のため 武蔵野まごころ連を発足

「武蔵野まごころ連」は、東日本大震災直後に武蔵野市民社会福祉協議会(市民社協)が市の友好都市である岩手県遠野市の被災地支援ネットワーク「遠野まごころネット」の協力を得て実施したボランティア派遣事業に参加したメンバーの有志が発足。被災地への支援ボランティアを継続する必要性を痛感したメンバーが自主的に仲間を集め、平成23年9月に支援活動を開始した。武蔵野市に在住、在勤、在学している人々が中心となり、被災地への支援を行っている。

現在は30名のメンバーそれぞれが3日〜1週間単位の時間をつくり、岩手県や福島県でのボランティア活動を行う。現地での活動は、森林の手入れや花壇の整備などのほか、被災者の話し相手といった心のケアまで幅広い。2代目代表を務める亜細亜大学4年生の



サンタクローズになって被災地でクリスマス会を開催

藤本枝里さんは、被災地支援の現状を目の当たりにし「まだまだボランティアが必要なのに、徐々に人数が減っているのが現状です。被災した方はまだ生活するだけで手いっぱいなので、少しでも力になれる活動をしていきたい」と語る。また、副代表の明治大学4年、竹場洗さんは「福島は、放射能の影響からがれきがまだ放置されていて、当時の生々しい状況が残っています。福島を含め被災地に対し、何かしないといけないと強く感じました」と話してくれた。

武蔵野市でもできる ボランティア活動も

現在武蔵野市には、約150人の被災者が避難して

いる。しかし、なかなか市民の中に溶け込めないのが現実だ。そんな、被災者のために市民社協では、心のケアも含め、さまざまなイベントを開催。そのサポートも『武蔵野まごころ連』が行っている。

「被災地に行くだけがボランティア活動ではなく、東京でもできることがたくさんあります。市内に住む被災者へのケアもそうですし、被災地の今の状況を伝える広報活動もボランティアの一環だと考えています。自分のできる範囲でぜひ参加してもらえたらうれしいです」と藤本さんは切望している。興味のある方は一度参加してみたいかがたろう。

武蔵野まごころ連プロフィール

メンバーは男性17名、女性13名。学生、留学生、会社員、シニアまで幅広い世代が参加している。市内、被災地でのボランティアを随時募集中。



活動ブログから
問 <http://ameblo.jp/musa-mago/>
活動内容は随時更新中